

平成30年度 自己評価書 足立区立第九中学校

校長 長塚 琢磨

1 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

1 学校の現状

生活指導の徹底が基盤となり、はじめと明るさが両立した学校生活である。生徒行動指針「磨く」「挑む」「思いやる」が生徒・保護者・地域社会に浸透し、学習活動や学校行事に熱心に取り組んでいる。

(1) 生徒について

目的意識をもち、明朗快活な生徒が多い。しかし一部に、人間関係づくりができないなど学校生活に馴染むことができずに不登校となる生徒や教育相談を受ける生徒もいる。

(2) 教職員について

公務員としての職務を理解し、強い使命感をもって、熱心に生徒指導や部活動指導に当たる教職員が多くいる。しかし、ここ数年で若手教員が増加し、年齢のアンバランスがある。

(3) 保護者・地域社会について

多くの保護者は、本校の教育活動を理解し連携した指導を行っている。しかし一部に教育力の低い家庭があり、生徒の基本的な生活習慣が確立できていないなどの課題もみられる。

地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、教育の向上を図っている。特に、PTAはもとより足立九中後援会や「おやじ・おふくろの会」は、教育活動推進で物心両面の支えとなっている。

2 成果と課題

(1) 成果

学習面については、自主的に早朝から学習する生徒や、昼休み・放課後などに生徒同士で教え合う取組を行うなど、生徒の主体的に学ぶ態度が少しずつ養われた。

豊かな心の育成については、学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な運営、ボランティア活動の推進等により、部活動や行事に頑張れた生徒が90%を超えるなど自己肯定感が高まった。

体力や活力については、挨拶や礼儀・マナー等の節度ある生活の推進、元オリンピックやプロスポーツ選手等の活用、食育の充実、部活動の充実等を通して、生徒に自主的・自律的な態度を育成した。

小中連携については、喫緊の課題をもとに3つの部会を組織し、小中の合同研究で研究に取り組み、成果を冊子にまとめ発表するなど小中一貫教育の視点に立った指導を一層推進することができた。

(2) 課題

ア 学力調査の分析と改善策の検討、主体的・対話的で深い学びの創造、OJTの充実による教員の授業力向上、各種学習コンテスト、家庭との連携強化などで主体的に学ぶ態度の育成を行っていく。

イ 行事等における自主的な運営の充実、社会貢献活動の推進、スマートフォン等の使用の自己抑制など、思いやりの心や自律の態度を養い、生徒の自尊感情や自己肯定感を一層高めていくことが課題である。

ウ 東京都教育委員会スーパーアクティブスクールとして、活力ある生徒の育成や体力向上に関する研究成果をまとめ、発表会を開催するなど、東京都全体に普及・啓発することが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要

重点的な取組事項－1 学力向上

自ら主体的に学ぶ力の育成と基礎的基本的な学習内容の定着を目指し、少人数学習指導の導入、個に応じたきめ細かな指導、定期的な教科コンテスト、放課後に行うESL等の補習や夏季補充授業、補充教室やサマースクールの充実、土曜スクールや各種検定取得の推進及び生徒の主体的な学習を促す取組を実施した。

重点的な取組事項－2 健全育成

人間的な豊かさを養うために、挨拶や礼儀・マナーの推進、学習意欲の向上の工夫、生徒会活動や学校行事における生徒の自主的な運営、小学校との交流活動、外部人材の活用、社会貢献活動の推進などを実施した。

重点的な取組事項－3 体力向上

活力ある生徒の育成を目指し、授業改善、部活動の推進、食育の充実や生活習慣の確立など、小中一貫教育の視点に立った指導を意識し、小中の合同研究で研究に取り組んだ。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

区学力調査では、学校全体の生徒の通過率が 55.6%と過去最高の昨年より 9.3 ポイント低下した（区全体は 9.2 ポイント低下）。

次年度は、基礎学力の向上と主体的に学習する態度の育成により、一人一人が課題をもって学習に取り組み、自己の課題を解決していく授業づくりや補習の工夫などを行うとともに、家庭との連携等により学習習慣の確立を図っていく。

重点的な取組事項－2 健全育成

挨拶、学校行事や部活動に頑張れた生徒が 90%を超えるなど、自己の生活や取組状況について満足している傾向にあり、自己肯定感は全学年 70%を超えた（昨年度は第 1・2 年が 60%代）。

次年度は、社会貢献活動の推進や道徳科を中心とした思いやりの心の育成などを一層充実させ、生徒の自尊感情や自己肯定感をさらに高めていく。

重点的な取組事項－3 体力向上

東京都教育委員会スーパーアクティブスクールとして、3 年間の取組を行い男女共に体力合計点が全国平均を超えた。また、生活の豊かさ等をみる生徒の自己評価において、ほとんどの項目が 80%以上であるなど、成果がみられた。

次年度は、体力向上と豊かな生活を送る活力の育成を一層向上させるため、授業等の改善・充実や保護者との連携強化とともに、小中一貫教育の視点で取組を充実させていく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

生徒たちには無限の可能性があり、一人一人違った良さや個性があります。それを引き出し、自ら未来を切り拓いていく力を育成するのが義務教育の使命です。

本校では、文武両道を合言葉とし、目指す生徒の姿を「磨く」「挑む」「思いやる」として、全教職員が丸となって指導に当たっています。礼儀正しく活力がある本校生徒は、これまでも推薦による合格率が極めて高い状況です。部活動が盛んであり、関東大会や全国大会を目指して取り組んでいます。

これらは、保護者や地域の皆様との連携・協働による教育の成果と捉えています。また、開かれた学校づくり協議会は、学校教育への支援が高く評価され、昨年度に東京都教育委員会から感謝状をいただきました。さらに、本校には足立九中後援会があり、物心両面の支援をいただいています。

生徒たちは、地域の次代の形成者であるとともに、現在でも地域社会を安全かつ明るくするための重要な人材です。このことを踏まえて、学校・家庭・地域が一体となり、今そして未来に輝く生徒を育成していきたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2 平成 30 年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-----------------------------|--------------|-----------------|--|-----|
| 自ら主体的に学ぶ力の育成と基礎的基本的な学習内容の定着 | 区学力調査通過率 65% | 通過率が 55.6%であった。 | 区全体で 9.2 ポイント下がっているが、本校は 9.3 ポイント下がった。個人や学年、教科による差が見られることが課題である。 | △ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|---------------------------------|------|--------|------|---------|-----|
| 別紙「平成 30 年度学力向上アクションプラン」評価シート参照 | | | | | |

重点的な取組事項－2 健全育成

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|----------------------------|------------------|-----------------|------------------------|-----|
| 思いやりや自己肯定感の高まりなど人間的な豊かさの育成 | 自己評価 自己肯定感70% | 自己肯定感78.0%であった。 | 特に、第3学年で85.1%と高い数値である。 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|----------------------------|----------------------------|--|--------------------------------------|----------------------------|-----|
| 学習活動への意欲 | 生徒自己評価 学習への努力 率85%以上 | 到達度測定テスト等の実施による継続的な努力の評価と励ましの推進 | 学校での学習に努力したと回答した生徒が84.9%であり、おむね達成した。 | 授業改善により維持・向上させていくことが課題である。 | ○ |
| 小学校との交流活動や地域における社会貢献活動等の充実 | 生徒自己評価 人のためになる活動85%以上 | 授業・部活動体験、小学校補充学習への学習支援、地域でのボランティア活動の推進 | 人のためになる活動84.4%であった。 | 活力ある生活に関する指導の充実が課題である。 | ○ |
| 学校行事の主体的な運営参加 | 生徒自己評価 行事等の頑張り90%以上 | 委員会や係の立場・役割の明確化と生徒の自主的な運営の推進 | 頑張れたと回答した生徒が95.0%と高いレベルで目標を達成した。 | よき伝統として引継ぎ、発展させることが課題である。 | ◎ |

重点的な取組事項－3 体力向上

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|-----|
| 小学校との連携による児童・生徒の体力向上及び意欲的・主体的な生徒の育成 | 生徒自己評価 で学校生活の満足度や体力の高まり度80%以上 | 学校生活満足度88.6%、体力の高まり83.3%であり、十分達成できた。 | 小学校との日常的な連携と発展的な研究の推進が課題である。 | ◎ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|----------------------|-----------------------------|--------------------------------------|---|------------------------------|-----|
| 体力の向上と活力ある生活の推進 | 生徒自己評価における運動への関心や体力向上80%以上 | 体力向上に関する研究の推進と、生活態度や学ぶ意欲など学校生活の質の向上 | 運動スポーツへの関心86.0% 体力が高まった83.3% | 体力は全国平均を超えた。主体的な態度の育成が課題である。 | ◎ |
| 部活動への積極的参加 | 生徒学校生活充実度調査における参加率90%以上 | 部活動の教育的な意義の明示や賞賛等による全生徒による部活動の推進 | 学校生活に満足88.6% (1年80.6%、2年89.9%、3年94.7%) | 学年進行と共に向上し、第3学年では94.7%であった。 | ◎ |
| 小中一貫教育の視点にたった教育活動の推進 | 学習体系化と小中合同研究の充実、教員自己評価80%以上 | 学び方、国際理解教育及び体力向上の視点での研究、検証、まとめ、発表の実施 | 発表会の成功 小中交流と社会貢献70.4% 体力と活力81.5% | 概ね満足であるが、さらなる指導力の向上が課題である。 | ○ |

3. 学校活動全般について

保護者や地域住民は、本校の行動指針である「磨く」「挑む」「思いやる」について十分理解していただいている。学校・家庭・地域が連携して、地域を愛する生徒、活力のある生徒の育成に取り組んだ。今後は、これからの社会を生き抜く力として求められているグローバル人材の育成を目指していきたい。

また、生徒の発達の段階を踏まえて、物事に対する関心を深めること、わかる・できる楽しさを味わわせることや、他者と協力して課題を解決していくことなどの体験を通して、教育基本法が示す生徒の主体的に学ぶ態度を養う教育の充実に努めていく。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立第九中学校長 長塚 琢磨

| | | アクションプラン | 達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉 | 具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 (◎○△●) |
|---|----|-----------------------|--|---|---|--|---------------|
| 1 | 改善 | 基礎学力の定着 (知識・技能の習得) | 平均通過率 65% 基礎学力達成率 80% | 1 朝学習 8時15分からの朝学習により学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。 2 学習コンテスト 計算や漢字をはじめ各教科の基礎知識等を行い学力の定着を図る。 | 平均通過率(4月) 55.6% 基礎学力達成率 81.0% | ・通過率は、昨年度比-9.3ポイント(区全体-9.2ポイント)であり、個に応じた指導と家庭学習の確立による基礎的・基本的内容の定着が課題である。 | △ |
| 2 | 改善 | 授業改善の充実 | 学習意欲を高める指導の実施 90% 研修等の機会 10回 主体的・対話的で深い学びの授業の把握 2回 | 1 校内研修 全校研修、教員間のOJTミニ研修等 2 研究授業 学び方など3つの視点で実施 3 情報交流 職員室内のコミュニケーション拡大など | 学習意欲を高める指導の実施 74.1% 研修等の機会 10回 主体的・対話的で深い学びの授業の把握 2回 | ・毎日の授業観察、校内研修、ミニ研修、小中連携研修により研究成果を冊子にまとめ発表会を開催したので、その確実な実施が課題である。 | △ |
| 3 | 新規 | 学習カウンセリングの推進 | 学習への努力 85% 全生徒との個別相談・指導と三者面談の実施 | 1 個別カウンセリング ・ 自己の課題の発見 ・ 勉強の仕方や学習習慣 2 三者面談や進路相談等 | 学習への努力 84.9% 全生徒との個別相談・指導等の実施 | ・早朝の学習相談や学習指導、放課後等の個別指導や進路相談等を積極的に実施した。 | ○ |
| 4 | 改善 | 補充的学習の充実 | 基礎学力 10ポイント向上 | 1 ESL 指名制による個別の補充学習 2 サマースクール等 1学年数学特訓、各学年の補充教室 3 関係機関との連携強化 学習塾、チャレンジ学習など | 基礎学力 15ポイント向上 (最大40ポイント) | ・授業外の個別指導やグループ指導等で全体としては一定の成果が出ているが、生徒一人一人に応じた指導の充実と生徒が自ら学ぶ態度の育成が課題である。 | ○ |
| 5 | 新規 | 主体的な学習機会の提供 | 各教科の学習コンテスト等 80% 英検・漢検・数検の受検者数 50% | 1 教え合い教室 生徒が問題等を作成し教える学習の場 2 各種検定へのチャレンジ推進 4～5回の土曜スクール | 各教科の学習コンテスト等 82.0% 英検・漢検・数検の受検者数 52.0% | ・学年により取組内容を工夫しているため、有効な指導について共有化し、改善・充実させることが課題である。 | ○ |
| 6 | 改善 | 学習習慣の確立 | 家庭学習を1時間以上 70% | 1 楽しくわかる授業の工夫と学習助言 2 各種たより、保護者会及び面談 3 地域における勉強会の実施 | 家庭学習を1時間以上 56.8% | ・第3学年が約70%であった。授業での支援と家庭との連携による習慣化が課題である。 | △ |